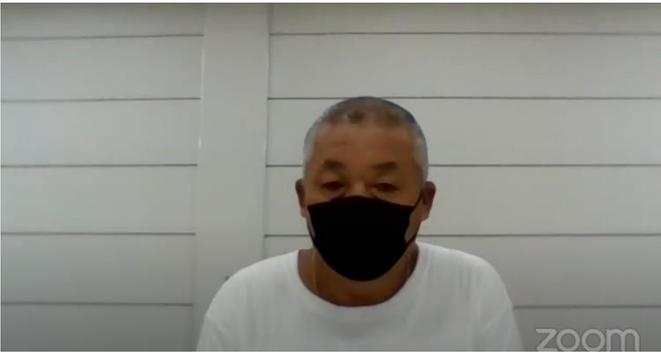


## Z-GIS のユーザー活用事例！

### in 第 2 回 Z-GIS・ザルビオ WEB ミーティング

#### ① リモートセンシング&可変施肥



加茂農園 代表 加茂氏（静岡県浜松市）

#### 加茂農園について

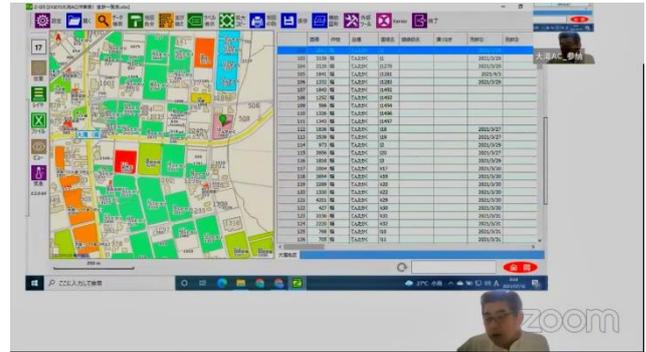
令和 2 年 6 月から Z-GIS を活用し、データを使った先進的な営農を実践されています。米専業 18 ヘクタールの家族経営で、面積の約半分は地域ブランドの特別栽培米「やら米か（やらまいか）」や 5 軒の農家と共同で「陽の娘（ひのっこ）」を栽培し、残り半分は一般米を栽培されています。

#### 加茂さんの Z-GIS 活用

加茂さんの Z-GIS 活用の特徴は、国際航業の人工衛星リモートセンシング「天晴れ」を利用し、センシングデータをもとに Z-GIS 上で可変施肥マップを作成していることです。さらに可変施肥マップデータを、USB メモリを介して IHI アグリテック社の GPS ナビキャストに移行し、可変施肥を実施しています。

参加者からセンシングデータに合わせた施肥量の設定について質問があり、加茂さんは「10a あたり 5kg 施肥量を変えて様子を見ている」と回答されていました。まさにこのあたりは、「スマート農業技術をいかに使いこなすか」という重要な課題です。

#### ② Z-GIS と KSAS の併用



大滝 AC 参納氏（富山県高岡市）

#### 大滝 AC について

大滝 AC は米を中心とした農事組合法人です。生産者は全て兼業の 69 戸、栽培面積は 55ha、1 筆約 10a の圃場を多数管理されています。

営農上の課題は、作業従事者の高齢化や減少、水路が迷路化している、狭い農道などです。そのため、技術の見える化、インフラ改良、農機の新規導入などの対策に加え、スマート農業技術も導入されています。

#### 参納さんの Z-GIS 活用

参納さんは、記憶や経験を記録と分析につなげるため、Z-GIS と KSAS を併用しています。Z-GIS はエクセルで管理できるので、営農の記録を集計し、分析することが容易だという観点から、圃場情報や栽培履歴等の記録に活用しています。一方、KSAS は現場での入力に優れているので、圃場作業時の作業内容や作業時間の記録には KSAS を活用しています。

Z-GIS のスマホアプリも現場でスムーズに入力できるように改善してほしいとご要望も頂きました。